

令和7年度 青森市平和・防災学習事業 報告書



岩手県釜石市の中学生と「青森県防災教育センター」にて

青 森 市

目 次

1 令和7年度青森市平和・防災学習事業 実施概要	1
(1) 趣 旨	1
(2) 派遣（相互交流）先	1
(3) 派遣者	1
(4) スケジュール	2
①任命式・事前交流	2
②相互交流／釜石市中学生の受入	2
③相互交流／青森市中学生の派遣	2
④体験報告	2
2 活動の記録	3
(1) 任命式・事前研修会	3
(2) 相互交流／釜石市中学生の受入	3
(3) 相互交流／青森市中学生の派遣	6
(4) 体験報告.....	10
○平和と防災を考え、受け継ぐ集いに参加した小学生の感想	18
○平和と防災を考え、受け継ぐ集いに参加した中学生の感想	19
3 活動を振り返って	21
○青森市中学生（派遣者10名）の感想	21
浦町中学校 稲野邊 悠也	22
浦町中学校 宮崎 瑠菜	22
造道中学校 北山 昊雅	22
造道中学校 岩城 咲花	23
戸山中学校 高谷 直利	24
戸山中学校 白取 彩菜	24
北中学校 堀 桜輔	25
北中学校 齊藤 天茉莉	26
三内中学校 吉崎 駿	26
三内中学校 三國 結愛	27
○編集後記	28

1 令和7年度青森市平和・防災学習事業 実施概要

(1) 趣 旨

先の大戦により戦争被害を受け、また、東日本大震災により甚大な被害を受けた岩手県釜石市へ本市の中学生を派遣し、平和の尊さと地震等の災害に対する防災対策の大切さへの理解を深めます。併せて、その体験を小学生や中学生に伝えるとともに、広く市民に発信することで、市民の平和意識、防災意識の醸成を図ることを目的に実施します。

今年度は、派遣先の中学生を本市に受け入れる相互交流を実施しました。

(2) 派遣（相互交流）先

岩手県釜石市

(3) 派遣者

<青森市>

浦町中学校	1年	いな の べ	ゆう や	悠 也
	1年	みや ざき	る な	菜
造道中学校	1年	きた やま	こう が	北 山 昊 雅
	1年	いわ き	さ な	岩 城 咲 花
戸山中学校	1年	たか や	なお と	高 谷 直 利
	1年	しら とり	あや な	白 取 彩 菜
北中学校	1年	ほり	おう すけ	堀 桜 輔
	1年	さい どう	て まり	齊 藤 天 菜 梨
三内中学校	1年	よし ざき	しゅん	吉 崎 駿
	1年	み くに	ゆ あ	三 國 結 愛

<釜石市>

釜石中学校	1年	しら の	み か	白 野 美 佳
	1年	さ さき	ゆ ら	佐々木 夢 空
甲子中学校	1年	ほら ぐち	やま と	洞 口 大 翔
	1年	かしわ だて	ゆ な	柏 館 夕 奈
釜石東中学校	1年	ふじ わら	ゆう り	藤 原 悠 利
	1年	こ ぼやし	あ こ	小 林 彩 恋
唐丹中学校	1年	なかいぼやし	ふう が	中居林 楓 雅
	1年	く ぼ	じゅ り	久 保 樹 李
大平中学校	1年	た はら	かおる	田 原 薫
	1年	こかわら	ゆ り	小川原 百 合

※市内全域での平和意識、防災意識の醸成のため、派遣校は「持ち回り」

※派遣校5校のうち1校の教員1名及び青森市総務部総務課職員2名が引率

※釜石市教育委員会事務局学校教育課職員2名が引率

(4) スケジュール

①任命式・事前交流

6月19日(木) 任命式、事前研修会【青森市役所本庁舎】

②相互交流／釜石市中学生の受入

7月27日(日) 青森市内の平和関連施設の見学【青森空襲資料常設展示室 外7か所】

7月28日(月) 青森市平和祈念式典への参加【アウガ AV 多機能ホール】
青森市内の防災の体験型施設の学習【青森県防災教育センター】
青森空襲80年平和講演会への参加【青森市役所本庁舎1階ロビー】

7月29日(火) 青森市内の防災関連施設の見学【青森市総合体育館】

7月29日(火) 釜石市中学生との意見交換【青森市役所議会棟4階 委員会室】

③相互交流／青森市中学生の派遣

8月8日(金) 出発式【新青森駅】
表敬訪問【釜石市役所第1庁舎】
いのちをつなぐ未来館の見学

釜石^{うのすまい}鶴住居復興スタジアムの見学
8月9日(土) 鉄の歴史館の見学
釜石市戦没者追悼・平和祈念式への参加【釜石市民ホール TETTO】
戦争体験談の朗読【釜石市役所第4庁舎】
釜石市中学生との意見交換【釜石市役所第4庁舎】
釜石市郷土資料館の見学

8月10日(日) 解散式【新青森駅】

④体験報告

9月30日(火) 平和と防災を考え、受け継ぐ集いでの体験発表及び修了証書授与
【造道中学校】

10月12日(土)・13日(日) 文化祭での体験発表
【浦町中学校、戸山中学校、北中学校、三内中学校】

2 活動の記録

(1) 任命式・事前研修会

◆任命式 [6月19日(木) 青森市役所本庁舎]



西市長から青森市平和・防災学習事業の派遣者として任命状を授与されました。任命式後の懇談では、派遣者それぞれが本事業に向けた抱負を述べ、今後の学習と交流に向けて決意を共有しました。

◆事前研修会 [6月19日(木) 青森市役所本庁舎]



7月27日から29日に実施する青森市内研修及び8月8日から10日に実施する釜石市への派遣に先立ち、事前研修会を実施しました。研修では、市職員を講師として、平和学習（青森空襲等）及び防災学習（地震・津波等）を行い、基礎的な知識を学びました。

(2) 相互交流／釜石市中学生の受入

◆青森市内の平和関連施設の見学 [7月27日(日) 中央市民センターほか]



釜石市の中学生とともに市内の平和関連施設等を見学しました。見学に当たっては、青森市民図書館歴史資料室の工藤室長を講師として、各施設の概要説明を受けました。青森市内に残る戦災の痕跡や展示資料、記念碑等を通じて、戦争の記憶や平和への願いについて理解を深めました。

[青森市内の平和関連施設の見学ルート]

中央市民センター（青森空襲資料常設展示室、プラネタリウム）～②カトリック本町教会～
③青森製氷株式会社～④旧青森銀行本店（現 青森県立郷土館）～⑤空襲・戦災都市 青森の碑
～⑥八甲田丸～⑦ねぶたの家 ワ・ラッセ

◆青森市平和祈念式典への参加 [7月28日（月）アウガ AV 多機能ホール]



戦後 80 年を記念して行われた今年の式典では、追悼行事に加え、青森空襲を題材とした演劇が上演されました。本市の中学生は交流派遣で来青した釜石市の中学生と合同で参加し、戦争の犠牲者への祈りを込めて、折り鶴を献上しました。式典への参加を通じて、生徒たちは、戦争の記憶を風化させることなく、平和の尊さを次世代に継承していくことの重要性を改めて学びました。

◆青森市内の防災の体験型施設の学習 [7月28日（月）青森県防災教育センター]



青森県防災教育センターでは、想定される災害に備えた体験型の学習に参加しました。

震度 7 を含む揺れの体験を通じて、縦揺れ・横揺れの違いや実際の危険性を体感したほか、火災時の煙体験により、視界が極端に悪化する状況下での適切な行動について学びました。

また、東日本大震災の状況や、雪国特有の冬季災害への備えなどについて説明を受け、青森県の地域特性を踏まえた防災上の課題について理解を深めました。

◆青森空襲 80 年平和講演会への参加 [7月28日（月）本庁舎 1 階サードプレイス]



青森市民図書館歴史資料室の工藤室長を講師として開催された講演会に参加しました。

本講演会を通じて、生徒たちは、戦争の悲惨さが決して遠い過去の出来事ではなく、現在の平和な社会が多くの犠牲と努力の上に成り立っていることを改めて認識しました。

◆青森市内の防災関連施設の見学 [7月29日(火) 青森市総合体育館]



青森市総合体育館（カクヒログループスーパーアリーナ）は、平常時はスポーツ施設として利用される一方、災害時には多機能な避難拠点として機能する施設です。専用ライフラインの確保や、通年での避難生活を想定した備蓄体制など、減災と利便性を両立させた設計思想について学びました。

◆釜石市中学生との意見交換 [7月29日(火) 青森市役所議会棟4階 委員会室]



「青森市での研修を通じて学んだこと」をテーマに、青森市と釜石市の中学生による意見交換会を実施しました。平和と防災に関する学習成果や印象に残った点について活発な意見交換が行われ、相互理解を深めるとともに、多角的な視点を得る有意義な機会となりました。

学習の記録より —平和と防災について考えた生徒の声（青森市編）—

◇青森空襲80年平和講演会を聞いて、特に印象に残ったのは、東奥日報の社員の方が青森空襲から逃げながら、記事を書いたという話です。必死に生き延び、そこから町を復興してくれた人たちのおかげで、今、平和に暮らすことができているのだと感じました。

◇平和祈念式典に参列し、多くの尊い命がなくなってしまったことを思いながら、その人たちが目の前にいるかのように想像し、折り鶴を献上することを意識しました。第2部の演劇では、80年前の7月28日の空襲の場面に、入り込んだように感じました。特に、空襲を受けて、多くの人が川に飛び込んで、亡くなっていく場面が頭に浮かんで来て、もう二度とこのような戦争を起こしてほしくないと思いました。

◇防災教育センターで特に心に残ったことは、地震の体験です。震度7を体験して、何かにかまっていないとバランスは保てなかったし、物もたくさん倒れてくることを考えると、本当に大変だと思いました。

(3) 相互交流／青森市中学生の派遣

◆出発式 [8月8日(金) 新青森駅]



新青森駅において、釜石市での研修に向けた出発式を実施しました。

司会進行及び出発の挨拶は生徒自身が務め、教員及び保護者による駅構内での見送りが行われました。生徒たちは温かい激励を受けながら、研修先へ向けて出発しました。

◆表敬訪問 [8月8日(金) 釜石市役所第1庁舎]



表敬訪問では、釜石市の小野市長に温かく迎えていただき、釜石市での研修を通じて学びたいことについて報告しました。小野市長からは、「戦争は、気づかぬうちに近づき、環境が整ってしまうことが最も怖い点である。そのため、『今の世の中は戦争に向かっていないか』という感性を磨くことが大切である」との言葉をいただきました。

また、「戦争を始めるのも、止めるのも、皆さん一人ひとりの選択と行動にかかっている」とのメッセージが伝えられ、生徒たちは平和を守ることの責任について考える機会となりました。

◆いのちをつなぐ未来館の見学 [8月8日(金)]



施設スタッフの川崎様より、東日本大震災による被害の甚大さと、教訓について説明を受けました。鶴住居地区防災センターでは、避難場所に対する誤った認識により多くの犠牲者が出た事例を通じ、避難場所への正確な理解と判断の重要性を痛感しました。一方で「釜石の奇跡」の事例では、日頃の防災教育と「津波でんでんこ」の実践がいかに命を救うかを学びました。

生徒たちは、被災物や写真などの展示資料を通して被害の甚大さを実感するとともに、映像だけでは伝わりきれない自然災害の脅威を心に刻みました。

◆釜石市鶴住居復興スタジアムの見学 [8月8日(金)]



釜石市地域おこし協力隊の竹内さんから、津波により甚大な被害を受けた旧小中学校跡地に整備された「釜石鶴住居復興スタジアム」について説明を受けました。

本施設は、2019年ラグビーワールドカップの開催会場として使用されたほか、防災・減災拠点として、耐震性貯水槽や高台避難路（海拔約20メートル）を備え、災害時には緊急避難場所として機能する設計となっていることを学びました。

◆鉄の歴史館の見学 [8月9日(土)]



鉄の歴史館では、森館長の案内により、日本近代製鉄発祥の地としての釜石の歩みと、製鉄業が地域社会や近代化を支えてきた歴史について学びました。一方で、昭和20年（1945年）には、戦時下において釜石市が二度にわたる艦砲射撃を受けたことを知りました。館内の写真や資料を通じて、釜石市の歩みが、鉄による発展と戦争の被害、そして復興という歴史に支えられてきたことを理解し、平和の尊さとその記憶を次世代へ伝える大切さを学びました。

◆釜石市戦没者追悼・平和祈念式への参加 [8月9日(土) 釜石市民ホール TETTO]



釜石市戦没者追悼・平和祈念式に参加しました。式典では、ボランティア団体「颯・2000」の佐久間良子さんにより、戦争体験者である和田乙子さんの手記が朗読され、和田さんと共に行動していた佐久間さんの母の体験も交えながら、艦砲射撃の凄惨な状況が語られました。

また、艦砲射撃を題材とした歌を歌い継ぐ「翳（かげ）った太陽」を歌う会による合唱が披露されました。式典の終盤では、参加者全員で釜石市平和都市宣言を読み上げ、参加者一人ひとりが祭壇に献花を行いました。

◆戦争体験談の朗読 [8月9日(土)釜石市役所第4庁舎]



ボランティア団体「颯・2000」の皆様のご協力のもと、艦砲射撃に関する学習会を受講しました。砲弾の大きさや犠牲者数、釜石市が攻撃目標となった背景について説明を受けた後、紙芝居や犠牲者の手記の朗読、絵本の読み聞かせを通じて、戦争の恐ろしさと被害の実態を学びました。

◆釜石市中学生との意見交換 [8月9日(土)釜石市役所第4庁舎]



釜石市での交流会では、はじめに青森空襲及び釜石艦砲射撃について、互いに事前学習してきた内容を発表し合い、各地域が受けた戦争被害の違いや共通点について理解を深めました。

続いて、「平和を守るために自分たちができること」をテーマに意見交換を行い、歴史を学び続けることや、戦争の記憶を後世に伝えることなどについて、具体的な意見が交わされました。

また、教育長からの問いかけを受け、戦争の記憶を継承していくことの意義について考えを深めるとともに、次世代へどのように伝えていくかを主体的に考える重要性を共有しました。

◆釜石市郷土資料館の見学 [8月9日(土)]



館内で戦時下の映像を視聴した後、釜石市文化振興課の佐々木館長から、釜石市における戦争被害について説明を受けました。釜石市は、製鉄業が軍需産業として重要視されていたことから攻撃対象となり、釜石製鉄所を中心に市街地にも砲弾が降り注ぎ、多くの建物や市民が被害を受けたことを学びました。映像資料や砲弾の破片の展示を通じて被害の深刻さを実感し、産業と戦争の関係について深く考える機会となりました。

◆宿泊ホテルでの説明 [8月9日(土)]



釜石ベイシティホテルにおいて、長坂支配人より、ロビーに展示されている東日本大震災当時の写真や映像をもとに、当時の状況について説明を受けました。ホテル4階から撮影された映像には、4メートルを超える津波が市街地に押し寄せ、1階部分が全て浸水した様子が克明に記録されており、自然災害の甚大さとその脅威を強く印象づける内容でした。

◆解散式 [8月10日(日) 新青森駅]



本派遣事業に参加した生徒の重要な役割の一つは、今回の学習を通じて得た知見や教訓を、青森市の小学生・中学生に伝えることです。9月30日に予定されている体験発表会に向けたスライド作成や発表用台本の準備に集中的に取り組みました。

全日程終了後、新青森駅において解散式を行いました。今後の体験発表に向けて、引き続き全員で協力して準備を進めることを確認し、本派遣事業を締めくくりました。

学習の記録より —平和と防災について考えた生徒の声（釜石市編）—

◇市長表敬訪問での釜石市長のお話で一番印象に残っているのは、「戦争を始めることも、止めることもできる」という言葉です。戦争は関係ないと思うのではなく、私達と深く関わっているという考えを持つと思いました。

◇釜石市鶴住居復興スタジアムでの研修では、外出先での被災に備える「減災ボトル」や「連絡先メモ」など、今まで知らなかった防災の知識に触れることができました。また、マンホールトイレを見学した際、青森市総合体育館との共通点に驚きました。

◇颯・2000の方々のお話の中で一番印象に残っているのは、絵本の読み聞かせです。特に「沈黙になった途端、戦争はしのびよってくる」という言葉が心に残りました。私は、この「沈黙」とは、戦争が誰の記憶からもなくなってしまうことだと思います。

(4) 体験報告

◆平和と防災を考え、受け継ぐ集い [9月30日(火) 造道中学校]



造道中学校全校生徒、造道中学校区学校運営協議会委員等、市内中学校の代表中学生、そしてオンラインで造道小学校6年生、小柳小学校6年生が参加し、多くの方々が見守る中、一丸となって、学習したことを自分たちの言葉で熱心に伝えました。発表後、赤坂副市長から修了証書をいただきました。

令和7年度 青森市平和・防災学習報告



○平和と防災を考え、受け継ぐ集いでの体験発表

【三内中学校 吉崎駿】

私たち10名は、青森市の平和防災学習事業について報告します。

先日、私たちは西市長から、防災学習代表生徒としての任命を受けました。

懇談の席で、私たちがまだ生まれていない時に起こった東日本大震災や80年前の戦争のことをお聞きしました。

釜石市に行った際は、津波や戦争の悲惨さについて学んだことを、青森市の仲間たちに伝えてほしいというお話もありました。

その後に行われた事前研修会では、地震について学びました。青森市に被害をもたらす地震は、海溝型地震と



内陸直下型地震の2つがあります。こちらは青森市の津波浸水に関するハザードマップです。

ここ、造道中学校も、津波の被害を受けることが分かります。普段から安全な避難場所を確認しておくことや、防災バッグなどを備えておくことが大切です。みなさんは、命を守るために備えていることはありますか。

【浦町中学校 宮崎瑠菜】

私は、夏休み中に青森市中央市民センターで開催された青森空襲展について説明します。

ここにある写真は青森空襲で実際に落とされた焼夷弾の弾頭です。その大きさにとてもびっくりしました。

また、たくさんの資料をもとに、歴史資料室の工藤さんからいろいろなお話をしてもらいました。

こちらは、実際に撒かれた米軍ビラの説明文です。

アメリカ軍は空襲の前に、ビラを撒いて市民に逃げるように知らせていました。しかし、ビラのほとんどは、日本軍によって回収されたと言われています。もしこのビラが回収されていなかったら救われた命もあったはずです。私はとても心が痛みました。

【造道中学校 岩城咲花】

私は青森市の平和関連施設について報告します。

はじめに紹介するのはこちらの青森製氷株式会社です。

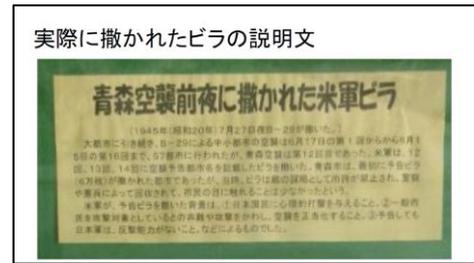
この会社は、100年以上続く歴史ある建物です。

左下にある写真は、青森空襲で焼け残った建物です。今でも氷を作る工場として活動しています。

次に、カトリック教会を見学しました。こちらにも青森空襲で焼け残った塀が残っています。

続いて旧青森銀行として活用されていた青森郷土館も見学しました。こちらにも空襲に負けず焼け残った建物です。青森製氷株式会社、カトリック教会、そして青森郷土館に共通していることは、レンガ造りだということです。国の登録有形文化財に指定されている、この郷土館については、どのように残していくか、今も議論が重ねられています。

このように、青森市に残されている戦争遺構、皆さんはどれくらい知っていますか。





【造道中学校 北山昊雅】

私はワ・ラッセと八甲田丸で学んだことについて発表します。

ワ・ラッセは、青森を代表するねぶたについて学べる施設です。実はこのねぶた祭、戦争中に戦意高揚のために利用されたこともあったようです。ねぶたが戦争に関わっていたことを知って驚きました。

続いて八甲田丸です。

青函トンネルが開通する前、この青函連絡船は本州と北海道を結ぶ重要な役割を果たしていました。

列車も乗せることができる、鉄道連絡船として活躍しましたが、戦争時、物資の移動を遮る目的で実施されたアメリカ軍の攻撃によって、9隻もの船が沈められました。皆さんは青函連絡船の歴史について、どれくらい知っていますか。

【北中学校 堀桜輔】

私は毎年7月28日、青森空襲で犠牲となった方々を追悼し、平和を祈念することを目的とした青森市平和祈念式典についてお伝えします。

式典では青森空襲戦没者に対する青森市長の主催者追悼のことばにはじまり、参加者による折り鶴献上が行われました。

その後実施された青森中央高校演劇部の卒業生による青森空襲を題材にした演劇や、青森南中学校合唱部の皆さんによる追悼合唱が行われました。

中央高校OBの方々による熱演と、南中学校合唱部の方々による戦争の情景が浮かんでくるハーモニーが戦争の悲惨さと亡くなっていった方々の無念さをまざまざと感じさせてくれました。

2度と戦争を起こさないために私たちができることはなんでしょうか。

【北中学校 齊藤天菜梨】

私は青森県防災教育センターで学んだことについて報告します。

ここは地震と火災の両方の体験ができる施設です。

はじめに地震体験をしました。

私たちは震度7を体験しましたが、何もできない程の激しい揺れでした。東日本大震災や熊本地震はこれほど

大きな揺れだったんだと実感しました。

次に、火災体験をしました。

煙で視界が遮られ逃げ道が見えなくてとても怖かったです。日頃学校で実施している避難訓練がいかに大切か学びました。私たちも含め、ここにいるみなさんも訓練を大切にしていきましょう。

【三内中学校 三國結愛】

私は青森空襲 80 年平和講演会について報告します。

講演では、青森市民図書館、歴史資料室室長の工藤大輔さんにお話をいただきました。講演のテーマは『「平和」のまち青森と青森空襲』についてです。

この講演があったのは7月28日。まさに80年前に青森空襲があった日です。青森県は、7月28日から29日にかけて青森市が主に空襲されました。

しかしみなさん、青森県の空襲はこれが初めてではありません。初めての空襲は3月10日でした。みなさんはこの日が何の日か知っていますか。

そうです、東京大空襲と同じ日なのです。実は青森県も、東京と同じ日に同時に攻撃されていたのです。

ここに貴重な当時の記憶があります。東奥日報の記者が県庁前へ避難する際に体験したことの記事です。記事を読みます。「風が吹くと火の粉が目に染みるように痛く、熱風が吹くと肺がやけどしないように呼吸を止める。」このような状況下でも必死に生き抜き、戦争のない日本にしてくれた方々に感謝するとともに明日生きてくても、生きることができなかつた方々のためにも、今、生きているこの瞬間を大切にしようと思いました。

【戸山中学校 高谷直利】

私は青森市の総合体育館について報告します。

青森市総合体育館は、2024年にできた新しい体育館です。この体育館の最も優れている点は、防災設備が整っていることです。例えば、こちらのマンホール。実はトイレになります。プライベートを守るために工事現場にあるような簡易式トイレをかぶせます。車椅子の方たちのことも考え一つ一つの間隔を広くとっています。

次に倉庫です。写真のようにガス、電気、水が備えられています。

青森県防災教育センター



青森空襲80年平和講演会



青森について



東奥日報の記者が体験した話



青森市 総合体育館



総合体育館の設備

災害など起こった時
マンホールトイレ
を使います。



総合体育館の倉庫

倉庫にある蛇口
家庭に必要な
ガス、電気、水
などが、
備えられている



釜石市長表敬訪問
(市長に挨拶)

稲野邊悠也



市長への
意気込み発表

青森市から派遣された
私たち10名が市長さん
へ意気込みを発表しま
した。



市長さんのお話

- ・いつ、戦争が迫って
くるか分からない
- ・若い中学生世代が
戦争にならないよう意
識を高める。



いのちをつなぐ未来館



東日本大震災

2011年(平成23年)3月11日

釜石市付近
最大遡上高 32.87メートル
死者・行方不明者 937名
被害家屋 4,282棟
マグニチュード 9.0



防災センター

逃げ込んだ196名のうち、亡くなってしまったのは 162名



有事の際はおよそ4,000人が避難できるよう設計されているこの体育館は倉庫に食料を備蓄し、ふとん等も用意されていました。

総合体育館に行った際、避難施設という目線でも見てほしいと思います。

【浦町中学校 稲野邊裕也】

ここからは釜石市で学習したことを報告します。はじめに私たちは、釜石市長を表敬訪問しました。

小野市長はお話の中で「青森市と釜石市は、太平洋戦争において、それぞれ空襲と艦砲射撃で、甚大な被害があったことを忘れず、その時の様子や、戦争の悲惨さを学び、後世に伝えていくことが、私たちの使命」とおっしゃいました。

また、「いつ戦争が迫ってくるか分からないので、君たちのような若い世代が、戦争にならないよう意識を高めしておくことが大切だ」ともおっしゃっていました。社会の授業やニュースを見るなどして世界情勢について、知ることが大切だと思いました。

【戸山中学校 白取彩葉】

私は「いのちをつなぐ未来館」について報告します。

いまから14年前、釜石市は甚大な被害に遭いました。

「いのちをつなぐ未来館」では当時の資料をもとに、震災の悲惨さを学んできました。

2011年(平成23年)3月11日、2時46分マグニチュード9.0の東日本大震災が発生しました。

釜石市付近では、最大遡上高は、32.87メートル。亡くなった方、行方不明者は、計937名。被害家屋は、4,282棟にのぼりました。

この場所はもともと、防災センターがありました。震災当日、この防災センターに196名の方が避難しました。ところが、この場所を大津波が襲い、避難した方のうち162名の方が命を落としてしまいました。この辛い教訓を忘れないために、この地に「いのちをつなぐ未来館」が建設されたのです。

震災当日、釜石東中学校の生徒が、近隣にある鶴住居小学校の児童の手を取りいち早く避難しました。

その結果、この地区の子どもたちは一人も死者を出しま

せんでした。

この2つの学校に共通していることは普段から防災リュックを背負いながら様々なことを想定して訓練をしていたということです。私は同じ中学生として、この地区の子どもたちが助かったことに安堵したとともに日頃の避難訓練は本当に大切だと実感しました。

【戸山中学校 白取彩菜】

次に私たちは釜石鵜住居復興スタジアムを訪問しました。ここはスポーツ競技の広場であり、ラグビーワールドカップが岩手県内で初めて開催された場所です。

実はここ、先ほど説明した鵜住居小学校、釜石東中学校があった場所なのです。

このスタジアムは、ハイブリッド天然芝を使って選手の負担軽減を図っているだけでなく、防災機能や震災の伝承施設としての役割も持っています。

そして復興のシンボルとしてラグビーワールドカップを誘致し開催したのです。『ラグビーの町 釜石』。このスタジアムは釜石市の過去・現在・未来をつなぐ架け橋として存在しています。

【浦町中学校 稲野邊悠也、戸山中学校 高谷直利】

続いて鉄の歴史館について報告します。ここは大島高任(おおしま たかとう)が日本初の西洋式高炉を建設し明治後半以降の日本の発展をささえた重要な施設です。

私たちは、「鉄は語る炎の世紀」という学習会に参加しました。当時の鉄づくりや歴史を、音と光が満載の迫力ある映像で紹介されました。皆さんは社会科の学習で、八幡製鉄所を学んだと思いますが、実はこの製鉄所、釜石市から派遣された技術者が建設したのです。みなさんは知っていましたか。

一方で、日本における鉄の中心地ということで、戦争中アメリカ軍に狙われるきっかけとなってしまったのも事実です。

【浦町中学校 宮崎瑠菜、造道中学校 岩城咲花】

続いて釜石市戦没者追悼式について報告します。

追悼式では1分間の黙祷のあと、小野市長の式辞、釜石市議会議長の追悼、釜石市戦没者遺族代表の追悼の言葉がありました。

鵜住居小学校、釜石東中学校の生徒など
3,000人 99.8%無事

避難訓練、防災訓練を
しっかりおこなったから
防災リュックを背負いながら
訓練したり、いろいろな
パターンで訓練してきたから



釜石鵜住居復興スタジアム



こだわりの芝



ラグビーの町 釜石



鉄の歴史館

稲野邊悠也
高谷直利



歴史館での学び

◎学んだこと

- ・当時の鉄作りの様子
や釜石の歴史
- ・製鉄技術の始まりや日本、
東北に伝わった鉄の文化



式辞・追悼

- ・小野市長の式辞
- ・釜石市議会議長の追悼
- ・釜石市戦没者遺族代表の追悼

戦争を二度と起こさないことの大切さ、
役目の再確認をすることができた





青森市は空襲、釜石市は艦砲射撃があり、どちらも忘れてはならない歴史であり、後世に伝えていかななくてはならないということをお話されていました。

また、合唱団のみなさんによる献唱や実際に戦争を体験なさった方の朗読もありました。

涙を流しながら語ってくださっている姿を見て私達も含め、会場の方々は一様に涙を流していました。

追悼式の最後に、私達も献花を献上させていただきました。釜石市では、戦没者の方々に「どうぞきれいなお花をお持ちください」という意味を込めて茎の方を慰霊碑に向けて供えます。献花中は戦没者に向けて哀悼の意と、平和への思いを捧げました。

二度と戦争が起こらないようにすることを、強く誓いました。

【造道中学校 北山昊雅、北中学校 堀桜輔】

戦争に関する学習会では、「颯・2000」の会の皆さんが釜石市であった艦砲射撃や機銃掃射について伝えてくださいました。

銃撃を避けるため川に飛び込んで亡くなった人、避難した防空壕が艦砲射撃を受け亡くなった人、そのすべてを実際に目の前で見た方からお話を聞きました。本当に想像を絶する怖さを感じました。

目の前に迫ってきた飛行機が自分を狙って銃撃してきたときの恐怖を皆さんは想像できますか。

【三内中学校 三國結愛】

体験談を聞いた後、釜石市の中学生と平和について意見交換をしました。

話し合いは自分が住む故郷の戦争体験の紹介と平和を守るために自分たちができることの1つの内容についてでした。

1つ目の議題では、それぞれの地域での戦争の被害や、当時の人の体験談、戦争が日常生活に与えた影響などについて話し合いをしました。

2つ目の議題では、安心して過ごすことができる世の中や、みんなが笑顔で不自由なく過ごせる世の中が平和というのではないかという意見が出ました。釜石市の生徒とも共に学ぶことができ、私たち中学生が平和について考える貴重な機会となりました。この経験を次の世代

にも繋いでいきたいと思いました。

【三内中学校 吉崎駿】

訪問先の最後となった郷土資料館は、釜石市の自然や民族、歴史や、東日本大震災による被害について写真や模型などを多数展示しています。

訪問した際は、艦砲射撃について企画展示しており、私は興味を持ちました。

右の写真は、砲弾の破片です。小さくて軽く見えますが、実際は破片にもかかわらず2.5キログラムあり、これが飛んできたと思うと、当時の人の恐怖が伝わってきました。

ここの郷土資料館で初めて、アメリカ軍が撮影した実際の艦砲射撃の映像を見ることができました。

あまりの射撃の激しさに絶句しました。

この写真は2キロ以上沖合から艦砲射撃を受け焼け野原になった、釜石市の画像です。

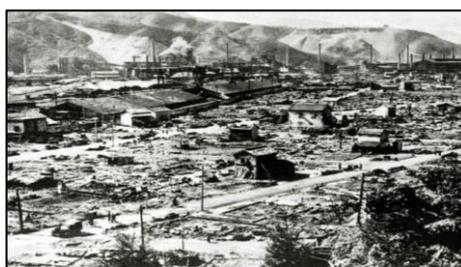
釜石市は7月14日と8月9日に艦砲射撃をうけており、両日も2時間以上攻撃を受けました。なぜ攻撃目標になったのか。それは、釜石市に製鉄所があり武器を作っていたためです。

【造道中学校 岩城咲花】

私たち10名は、7月下旬に釜石市から青森市にきた派遣生徒10名と青森市の平和と防災とともに学び、8月上旬に釜石市を訪問して、青森に派遣された釜石市の生徒と再び合流して活動しました。6日間に渡って学んだ「平和と防災」。

今、私たちが、何不自由なく生活することができるのは深い悲しみを負った先人たちがそれを乗り越えて築き上げた絶え間ない努力のおかげだということを決して忘れてはなりません。

そして、私たちはその思いを受け継ぎ未来に伝え続けていく役割を与えられた伝承者であることに決意を示さなければなりません。平和と防災は、私たちの手にゆだねられました。



平和と防災



○平和と防災を考え、受け継ぐ集いに参加した小学生の感想

- ◇ 自分たちが今住んでいる青森市でも、大地震や空襲があったことを初めて知りびっくりしました。今日の中学生の話聞いて、戦争は取り返しのつかないことなんだなと思いました。そのために毎年ある避難訓練を生かしたいです。
- ◇ 戦争（空襲）や東日本大震災などの体験や、その後の対策などの話を聞いて、とても大変で二度と起こってほしくないと思いました。地震は止めることができないので、地震が起きても自分で判断して行動できるようになりたいです。また、戦争は自分たち（人）が起こしている問題なので、起きないように対策ができると思いました。これからもずっと平和に暮らしていけるようにしたいです。
- ◇ 私が印象に残ったのは青森空襲が一回じゃなかったことです。7月28日、29日だけでなく、3月10日の東京空襲のときにも、青森県に空襲があったと聞いて驚きました。私たちが普段、生活できることが当たり前だと思っていましたが、戦争で食事ができなくなったり、家族を失ったりするかもしれないので、戦争はしたくないと思います。
- ◇ 戦争について、私はあまり詳しくは知りませんが、青森空襲の時の写真やその時の様子などを聞いて、怖くなりました。青森市総合体育館では防災設備が整っており、マンホールがトイレになったり、倉庫にはガスや電気、水が備えられていたりすることが分かりました。
- ◇ 鶴住居小学校と釜石東中学校の避難の話がとても印象に残りました。地震が発生してすぐに避難を開始して、途中で幼稚園児も助けながら避難ができて、その判断のおかげでその地域の子どもの死者は0人と聞いてすごいと思いました。私も避難訓練をもっと真剣に受けたいです。
- ◇ 私は、防災についてとても深刻な話だと思いました。なぜなら、戦争は止められるけど、地震などの自然災害は止められないからです。なので、そういう自然災害が起きたときにどうするかを、家族で話し合いたいと思いました。戦争についても、学習発表会に備えて、自分で考えてみたいと思いました。
- ◇ 心に残ったことは、当時の防災センターに避難した196人の人たちが、その建物を襲った津波によって162人亡くなったということです。今はハザードマップで津波がくるところを見て安全な所に避難できるので、きちんと確認して、いつでも避難できる用意をしておきたいです。また、普段から避難訓練をしていた小学校では死者がいなかったと聞き、避難訓練は自分を守るためにとても大事だということが分かりました。これからも避難訓練をきちんと行いたいです。

○平和と防災を考え、受け継ぐ集いに参加した中学生の感想

- ◇ 昔、青森に空襲があり大勢の人が死んでしまったことを初めて知りました。その空襲のあった日が、東京が空襲された日と同じだということに驚きました。また、2時間以上も自分をめがけて攻撃され続けることはとても恐ろしいと思いました。このことを聞いただけで終わらせず、戦争にしないためにはどうすればいいのか考えたいと思います。防災は、岩手県で起こった東日本大震災で避難所に逃げても高波で196人中162人が亡くなってしまったと聞いて、避難所に逃げていると安心してはいけなそうと思いました。しかし、釜石市の小中学生が落ち着いて素早く避難したことで死者が出なかったことがすごいと思いました。そのため、避難訓練は命を守るとても大切なことなのだと改めて思いました。
- ◇ 戦争を経験した世代の生々しい話が印象に残っています。風が吹くと火の粉が目に入る空襲時の熱風や灰によって、肺を痛めないよう、呼吸を止めなければならなかったという生々しい証言に触れ、戦争がもたらす肉体的・精神的苦痛の深さを理解しました。無念にも死んでいった人たちの死を無駄にさせないため、戦争の世代から次世代に移り変わる今の私たちが、これまで80年続けてきたように、100年、200年先の未来の日本や世界へとつなげていきたいと思いました。
- ◇ スクリーンに映し出される、80年前に実際にあった青森の悲惨さを目の当たりにし、参加者全員の呼吸のリズムが揃っていたように感じました。今、自分を含めた数百名に対して、「受け継ぎ」が行われているのだと感じました。一秒ずつ遠くなる戦争の記憶を、戦後生まれの私たちが、当時の人々のように正確に伝えることは、難しいかもしれません。しかし、本当に大切なのは、どの時代になっても、決して忘れることのできない「戦争の悲惨さ、不必要さ」を、その時代なりの解釈で、すべての人に伝えていくことではないかと、遠い過去の記憶となりつつあるものに対し、自分たちができることについて、考えさせられました。
- ◇ 印象に残ったことは、震度7の揺れの強さや炎の怖さです。震度7の揺れや炎は怖いなど思っていたのですが、話を聞いて改めて怖いなど思いました。立てないくらいの揺れや、目の前に炎があったら、本当に危険だし怖いだらうなど思いました。また、避難訓練をあらかじめ行っていた学校では、実際に避難を行った際にテキパキと行動でき、一人も亡くならなかったということに驚きました。私の中学校で年に複数回行われている避難訓練をしっかりと行い、避難場所や避難ルートをあらかじめ知っておくことの大切さを改めて知りました。この学びをここだけにとどまらずさまざまな人たちに伝えて受け継いでいくことが大切だと思いました。話を聞く前は、親や周りの人に伝える必要性をあまり感じていませんでしたが、周囲の人に伝えることで、東日本大震災などのことを忘れないようにしていきたいと思いました。

- ◇ 一番印象に残ったのは、「すぐそばを飛んでいる飛行機が自分めがけて攻撃してきたら、」という言葉です。なすすべもなく攻撃され続け、あたりが火の海になっていく様を見ながら、ただ走って逃げるといった地獄のような光景が脳裏に思い浮かびました。死と隣り合わせの恐怖を感じながら亡くなっていった人たちが、青森にも、すぐ近くの岩手県釜石市にもいることを、今まで他人事のように感じていました。そんな大切な人、大切なものを失った方々が諦めずに築き上げたこの土地で、幸せに生きられることがとても光栄なことだと気付かされました。同時に、これらの大切なことを教えてくれた釜石市へ派遣された皆さんのように、この地で起きた悲惨な事件を家族や身の回りの人たちにも伝え、忘れないようにしたいと思いました。

- ◇ 私は東日本大震災のときに、釜石中学校の生徒が小学校の児童を連れて避難したという話が印象に残りました。ハザードマップでは浸水域ではなかった地域にも津波が到達したという話を聞いて、避難場所に着いたからといって安心するのは危険だ、ということを知りました。これからは、防災意識を高め、いつ起こるか分からない災害に備えていきたいと思います。また、80年前に起こった悲惨な出来事を繰り返さないように、そのことをしっかりと伝えていきたいです。

- ◇ 青森空襲で、アメリカ軍が空襲前日に予告のビラを配り、そしてそのほとんどが日本軍によって回収されてしまったことが印象に残りました。どうして日本軍はビラを回収したのかと疑問に思いました。実際の砲弾の破片、焼き払われた釜石市の写真、そして東日本大震災の津波。これだけのことに遭いながらも、それを乗り越えて今の釜石市があることに感動しました。

- ◇ 災害は「これくらいなら大丈夫だろう」などと油断していると命を落としかねないので、ハザードマップを確認したり、防災バッグを準備したりして、しっかり災害に備えようと改めて思いました。また、戦争は災害と違って起こる前に事前に防ぐことができるので、そのためにも、私たちの世代が戦争の悲惨さについて、しっかり次の世代に伝えていくことが大事だと思いました。

- ◇ 私が今回の派遣生徒の話を聞いて特に印象に残ったことは、青森への空襲が7月28日、29日だけでなく、青森県内で3月10日にもあったということです。一般的には、3月10日は東京大空襲の日として知られていますが、その裏で青森県も空襲を受けていたことに衝撃を受けました。また、釜石にある製鉄所のように、戦争の際に重要となる施設は狙われやすいということが分かりました。そして、東日本大震災の際、鶴住居小学校や釜石東中学校の生徒が誰も亡くならなかったということが、生徒一人ひとりの意識がしっかりしていて素晴らしいなと感じました。青森にも戦争の跡が残った施設が多く存在しているので、一度でもよいから見に行ってみたいと思ったし、このような悲劇を二度と起こさないためにも今回のような話を後世に伝えていきたいなと思いました。

3 活動を振り返って

○青森市中学生（派遣者10名）の感想

浦町中学校 稲野辺 悠也

今回の研修に参加し、歴史や防災、そして平和の大切さについて多くのことを学びました。

まず、釜石市と青森市が太平洋戦争末期の空襲で甚大な被害を受けたという共通の歴史を改めて知りました。特に、アメリカ軍が使用した焼夷弾が、街を焼き払い、逃げ道を奪う目的で使われたことを知り、強い衝撃を受けました。また、疎開先から期限までに戻らなければ配給が受けられなくなる場合があったと知り、戦争が引き起こす非人道性と悲しさを痛感しました。

青森空襲の悲劇を青森中央高校の卒業生が再現した劇は、私にとって最も印象に残る体験でした。出演者の演技や表情、声の一つひとつが迫力に満ちていて、当時の悲惨な情景が目の前に浮かぶようでした。その中で、「当時に生まれなくてよかった」と思ってしまうほど、戦争の恐ろしさを強く感じました。市内に12もの平和・慰霊のモニュメントがあることに最初は驚きましたが、先生の説明を聞き、多くの尊い命が失われたことを知って、この数に、多くの人たちの平和への願いが込められていることを感じました。

防災についても多くのことを学びました。日本海溝地震と入内断層地震について、地震ごとのエネルギーの違いを知り、日頃から防災に取り組むことの大切さを感じました。さらに、普段は運動のために利用している青森総合体育館が、ガス・水道・電気・食料などが整備された広域避難拠点であることを知りました。単なる運動施設ではなく、地域の命を守る大切な場所であることを知り、この学びを周囲の人に伝えていきたいと思いました。

釜石市での研修では、東日本大震災当時の映像を見て、大きな衝撃を受け、また、鉄の歴史館では、鉄鉱石から鉄を作り出した大島高任の技術力に驚きました。特に、オランダ語の文献を翻訳して知識を得ていた話から、困難な状況でも学び続けることの大切さを感じました。

釜石市長から「感性を磨いてほしい」という言葉をいただいたように、今回の研修を通して、平和の尊さを改めて感じました。戦争で亡くなった多くの人々がいたからこそ、今の平和があるのだと思います。市長の言葉のとおり、私たち若い世代が、戦争の記憶を風化させることなく、平和な社会を守り継いでいかなければならないと感じました。私が考える平和とは、「誰も苦しめない世界」です。そのためには、まず身近なところから「いじめをなくす」ことが大切だと思います。今回の研修で学んだ平和の大切さと防災の大切さを、これからも多くの人に伝えていきたいと思いました。



浦町中学校 宮崎 瑠菜

私は東日本大震災の次の年に生まれ、当時のことはあまり詳しくは分かりませんが、戦争や自然災害の当時の写真や動画を見たとき、実際にその場になくても恐怖が伝わってきました。当時の人たちがどれほど怖かったかを完全に理解することはできません。それでも少しは感じ取ることができたと思います。それは、実際に震災を体験した人たちの思いや記憶が、今も伝えられ、広がっているからだと感じました。

青森市内での学習で特に心に残ったのは、中央市民センターの青森空襲資料常設展示室です。実際に見つけた資料や多くの写真が展示されていて、その場になくても当時の緊張感が伝わってくるように感じました。また、式典で上演された劇では、戦争を経験していない私たちにも当時の様子が強く伝わり、どんな行動にも意味がある中で、正しい判断の大切さを学びました。

防災学習では、地震体験で初めて震度7を体験しました。机をつかんでいても椅子から落ちそうになり、突然起きたらとても怖いと感じました。揺れ方にも種類があり、縦揺れ、横揺れどちらも怖かったですが、これまで経験したことがなかった縦揺れのほうが怖かったです。

釜石市での学習では、絵本の読み聞かせや、実際の砲弾の大きさについての説明があり、戦争のことを詳しく知ることができました。また、宿泊したホテルで写真や動画を見た際、東日本大震災で被災した場所だったので写真が多く残されていて、「同じことをもう一度繰り返したくない」という気持ちが強く伝わってきました。

この3か月間の学習を通して、釜石市だけではなく、私たちが暮らす青森市についても深く学ぶことができました。代表として派遣していただいたことで、青森の人たちに、青森のことだけでなく釜石市のことでも伝えることができるこの活動は、とても貴重な活動だと思います。これまでの学習はどれも緊張しましたが、一緒に学習を進めてきた仲間とともに頑張れたことは、これからも大切な思い出として残ると思います。

造道中学校 北山 昊雅

3か月間で色々なことを学び、たくさんの思い出を作ることができました。

青森市での学習では、青森市が空襲を受けていたことは知っていましたが、釜石市でも同じように大きな戦争被害を受けていたことを初めて知りました。これまで、「あの像は何だろう」と思っていた観音像が、人々の平和への願いを背負った大切な像であり、青森市の復興にとって大切な存在であることも分かりました。また、青森市は400年の歴史の中で戦争により大きな被害を受けたのは一回だけだったと知ることができて良かったです。青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸の館内では、爆撃される青函連絡船の写真を見て、80年前に写真と同じ出来事が実際にあったことに驚きました。平和祈念式典では、演劇の人たちの声が大きく迫力があり、詳しく分かりやすく戦争を知ることができ、戦争はしてはいけないことが分かりました。

防災については、震度7の体験や、津波や地震が起きたときにどうすればよいのかを学びました。初めて行った釜石市では、いのちをつなぐ未来館で話を聞き、避難訓練はただ行えばよいだけでないということをもう一度学ぶことができました。これからの学校での避難訓練を真面目に受けたいです。釜石市は自然が豊かで、最初は正直、のどかなまちという印象を受けましたが、

「釜石鶴住居復興スタジアム」や「いのちをつなぐ未来館」など新しい建物がたくさんあって、ここでラグビーワールドカップが開催されていたのだと思うと、よくここまで復興したなと感じました。また、鉄の歴史館では、艦砲射撃の砲弾の破片や重さを知りました。こんなに重い砲弾が大量に飛んできては、防空壕に入ったとしても安全ではなかったということ。「颯・2000」の人たちから聞き、戦争の中では逃げ場がほとんどなかったことが分かり、とても怖く感じました。

青森市での学習や釜石市での学習を通して、この事業に参加しなければ、この仲間やこの経験を知ることができなかつたので、参加してよかったです。これからは、学んだことをたくさんの人たちに伝えられるように頑張りたいです。

造道中学校 岩城 咲花

はじめは他人事のように思っていた平和と防災でしたが、この学習を通して、とても身近なものだと感じるようになりました。今の暮らしが、戦争による犠牲と戦後の努力の上に成り立っている平和だということ、また、東日本大震災からの絶え間ない努力があつてこそこの平穏な生活であることが分かりました。どちらも、私の知らなかつた時代に、先人たちが協力しあい、たくさんの努力を積み上げてきた結果、今の暮らしにつながっているものでした。今までこのことを知らなかつたことを本当に残念に思います。以前の私のように、先人たちのたくさんの苦労や努力を知らない人は、たくさんいると思います。私も以前は知らない側でしたが、この学習を通してたくさんのことを学んだからこそ、その架け橋に私たちはなるべきなのだと思います。

戦争を伝える方々が減り、私のように知らなかつた人たちが増えていくからこそ、学んだ私たちが伝え続け、後世に残していかなければならないと思いました。機会を設けることは簡単ではありませんが、このように平和と防災について学ぶ機会がこれからもっと増えるといいなと思います。

また、今日の発表で、私たちが学んできたことを再確認するとともに、多くの方々に伝えることができたことをとても誇りに思います。こんな経験は、もう二度とできないものだと思います。この3か月間で学んだことを忘れず、私の役目を全うするとともに、普段の生活にも生かしていきたいです。

さらに、一生の友人になるであろう今回の仲間たちに出会えたことを、とても嬉しく思っています。協力して資料を作り、共に学んだ経験は唯一無二で、本当に楽しかったです。この事業に参加して本当に良かったです。



戸山中学校 高谷 直利

今回の研修を通して私は、青森市と釜石市の平和と防災について知識を深めることができました。青森市での平和と防災の研修では、戦争の記憶を伝える取組や、今後想定される災害について学習し、命を守ることの大切さを改めて考えることができました。

地震体験や煙体験では、体験を通して災害の怖さを感じました。また、防災施設としての機能を備えている総合体育館には、避難生活に必要な食べ物や布団、電気、ガス、水などが備えられており、災害時には総合体育館のように安心して避難できる場所が身近にあることの重要性を知りました。私は、災害に備えて防災グッズを準備したり、家の近くにある避難場所を探したりして、いつ災害が起きても素早く避難し、自分の身を守れるようにしていきたいと思いました。

次に、東日本大震災の被害を受けた釜石市での研修で印象に残ったのは、「釜石の奇跡」の話です。日頃から避難訓練を行っていたことで、災害当日には、学校での避難行動により多くの子どもたちの命を守ることができたということを知りました。釜石市の子どもたちは、普段から避難訓練に真剣に取り組み、小中合同の避難訓練も行われ、日頃から協力して逃げる練習を重ねていました。研修の中で、道中で保育園児の避難を手助けしたり、車椅子を押ししたりするなど、「助けられる人から助ける人へ」を実践していたことを知り、強く印象に残りました。

私は、今回の経験をもとに、災害の恐ろしさや日頃の備えの大切さを多くの人たちに伝えていきたいです。また、命を大切にし、互いに助け合うことが、平和な社会を支えることにつながるのだと感じました。この貴重な体験を通じて学んだことを、今後は必ず生かしていきたいと思っています。

戸山中学校 白取 彩葉

私がこの約3か月間にわたる学習を通して学んだこと、感じたこと、考えたことは本当にたくさんあります。

これまで私は、震災について、「ただ恐ろしいもの」、「東日本大震災ではたくさんの人が亡くなった悲しい出来事」という印象しかありませんでした。しかし、この学習で、防災、震災、そして平和についてより深く学ぶことができました。

地震には海溝型地震と内陸直下型地震という種類があり、それぞれ特徴が大きく異なることを初めて知り、とても驚きました。また、実際に災害を経験した方のお話を聞き、その言葉の重みから、災害は決して遠い出来事ではないと強く感じました。青森市では、防災訓練の実施や避難所の整備など、多くの防災への取組が行われていることを知り、非常持出品の準備や、家族と一緒にハザードマップを確認するなど、自分自身が行動に移すことの大切さも学びました。

平和学習では、青森市が空襲を受け、多くの建物や生活の場が焼かれた歴史について知りました。実際に焼け残った資料や写真を見たとき、写真で見る以上に残酷で、胸が苦しくなりました。生後間もない赤ちゃんの衣服が焼けて残っていたことを知り、戦争が多くの人の大切な命や生活を奪ったことを改めて実感しました。また、当時の教科書や辞書などから、戦争が日常生活にまで深く影響していたことも印象に残っています。

平和祈念式典で鑑賞した演劇では、当時の青森に生きていた人々の苦しみや恐怖が、声や動き

から強く伝わってきました。ただ知識として学ぶだけでなく、感じ、考えることの大切さを実感しました。

釜石市での研修では、釜石市の方々から災害について学び、減災ボトルや連絡先メモなど、命を守るための具体的な工夫があることを知りました。東日本大震災の映像を見て、もし自分が同じ状況に置かれたらどう行動するのかを考えるようになりました。釜石市の復興への思いに触れ、学び続け、伝え続けることが未来につながると感じました。

発表はとても緊張しましたが、自分の考えや思いを言葉にすることができ、スッキリしました。思いが伝わっているか不安でしたが、他校の代表者が、私の発表した内容について感想を述べてくれたとき、思いがきちんと伝わっているのだと感じ、とても嬉しかったです。発表が終わったあとの拍手で、発表してよかったと思えて安心しました。私はこれまで人前に立つことが苦手でしたが、よい体験ができました。心からこの学習をしてよかったと感じました。

北中学校 堀 桜輔

この3か月間の平和・防災学習を通して、青森市や釜石市で起きた戦争の被害や、災害に備えることの大切さについて、たくさんのことを学びました。

青森市では空襲や防災について学び、釜石市では艦砲射撃や防災施設について学びました。

青森市での学習では、空襲によって街が大きな被害を受けたことや、青函連絡船が北海道と本州をつなぐ重要な役割を果たしていたことを知りました。その連絡船も爆撃を受けたことを知り、当時の人々の生活が戦争によって大きく変えられてしまったことを強く感じました。

また、釜石市では、艦砲射撃について学び、実際の映像を見て、あの大きく重い砲弾が大量に飛んでくると考えると、とても恐ろしいと思いました。

防災についての学習では、青森総合体育館を見学し、体育館が災害時の避難所として活用され、防災にも適した施設であることを学びました。さらに、避難訓練について、どれだけ真剣に取り組んでいても、方法が間違っていれば意味がなくなってしまうことを知り、正しい知識を身に付けることの大切さを理解しました。

この報告会での発表を通して、学んだことすべてを造道中学校で伝えることができ良かったです。今後は、自分の中学校にも、学んだことを伝え、中学校からまたさらに広げていきたいです。私はこの学習に参加して、これまで知らなかった青森市の歴史や釜石市の歴史を知ることができ、本当に良かったと思いました。今回の研修で学んだことを伝え続けていきたいです。



北中学校 齊藤 天菜梨

この研修を通して、私は平和と防災について多くのことを学びました。これまであまり深く考えたことのなかった平和や防災について、実際の話や体験を通して知ることができ、とても貴重な学びの時間だったと思います。

特に印象に残っているのは、青森市が約 400 年の歴史の中で、青森空襲を受けるまで一度も戦場になっていないということです。自分が住んでいる町が、これまで平和を保ってきたことを知り、その平和は当たり前ではないのだと感じました。

また、防災についても大切なことを学びました。火事や煙があるときには体を少しかがんで避難するとよいことや、地震などの災害に備えて、水などをあらかじめ用意しておくことの大切さを学びました。どれも普段の生活の中で意識できることであり、いざというときに自分や周りの人の命を守るためにとても大切な行動だと思いました。釜石市での研修では、釜石鶴住居復興スタジアムを見学して自然のことを知り、鉄の歴史館では鉄作りの歴史についても学びました。自然の恵みを生かしながら町が発展してきた一方で、自然災害とも向き合ってきた釜石市の歴史を知り、防災と町の歩みは深くつながっているのだと感じました。

この研修で分かったことは、その後の発表会でみんなに伝えることができました。今回学んだことを、これからの生活や防災に生かし、家族や身近な人にも伝えていきたいと思っています。

三内中学校 吉崎 駿

私がこの 3 か月間で、学んだことはたくさんあります。事前研修会では、私が一番学んだことは地震についてでした。内陸直下型地震と、海溝型地震の 2 つもあることに驚きました。前までは、南海トラフなどの有名な地震について知らなかったので、よい知識になりました。

青森市内での研修会で、私が一番印象に残っていたのは、赤ちゃんの服が焦げている展示を見たときです。街が火の海のようにになっていた状況が想像でき、すごく衝撃を受け、言葉を失いました。また、青函連絡船が石炭を送れないようにするため、空爆されたことを知り、北海道や青森にも戦争の被害があったのだと実感しました。

防災教育センターで体験した震度 7 の揺れは、思った以上の揺れで、何かにしがみつけないといられないほどでした。私は、2012 年生まれで、2011 年に起きた東日本大震災の怖さを経験していません。そのため、震度 7 の強さを知りませんでした。経験してみても、もし、急に家で起きたら、パニックになってしまうと感じました。実際起きたときは、まず、テーブルの下に隠れ、体を丸めて、頭を手で押さえて、身を守りたいと思いました。

平和祈念式典で今でも記憶に残っているのは、中央高校の卒業生による演劇です。戦争を経験した人たちにとって、「ウーウー空襲警報、空襲警報」というサイレンは、今でも心の傷になっているのではないかと思います。演劇を見て、本当にその場所にいるような感覚になり、当時の人たちの恐怖が伝わってきました。折り鶴を献上するときには、折り鶴のステージの場所に、戦争で亡くなった人たちのたくさんの思いが私たちを見守って、絶対もう二度と戦争を起こしてはならないと伝えているように感じました。

青森市総合体育館では、スポーツをするだけの場所だと思っていましたが、ガスや水、電気な

ど、いろいろな対策がされていることが分かりました。マンホールがトイレになることや、ベンチがかまどとして使えることにも、とても驚きました。そのようなことを考えた人の想像力がすごいなと思いました。

2泊3日の釜石市での活動では、郷土資料館で見た艦砲射撃を受けている映像や、砲弾の大きさが特に心に残りました。こんな砲弾が2時間も以上飛んできたと思うと、恐怖でしかありませんでした。

最後に、造道中学校での発表では、工藤教育長から、自分たちが平和と防災を伝えていくことで、それを聞いた人たちが、さらに後世に伝えていけば、もうこのような悲惨なことを二度と起こさないようになるというお話をいただきました。自分の学校の文化祭でもうまく伝えていきたいと思いました。これから、この経験を人生の中で、役立てていきたいです。

三内中学校 三國 結愛

私は今回の3か月間の学習で、たくさんのことを学びました。この学習に参加する前は戦争のことについては、ぼんやりと知っているだけでした。また、防災についても具体的に対策などはしていなかったし、大きな地震を経験したこともなかったので、あまり自分のこととして捉えてはいませんでした。しかし、3か月学んでみてからは、平和と防災のどちらにも関心を持つことができました。

戦争についての学習では、青森市も空襲を受け、街が焼け野原になり、たくさんの命が失われたということを、歴史資料室の工藤さんのお話や演劇、展示などから学びました。また、釜石市では、艦砲射撃を受けたことなどを、実際に戦争を経験した方のお話や、「颯・2000」の方々のお話、展示などから学びました。本当に悲惨な出来事ばかりで、何度も胸が痛くなる場面がありました。私たちは戦争を経験していないので、しっかり学ぶことは大切だなと思いました。けれど、ただ「行ってきた」、「学んだ」で終わらずに、身の回りの人たちに伝え、それを次の世代に受け継いでいくことが一番重要だと感じました。

防災についても、私の家では防災グッズを用意していなかったり、いざというときの避難場所を決めていなかったりと、防災に関してあまり対策をしていませんでした。そのため、しっかり備えているか聞かれたときは、ドキッとすることが多かったです。防災で印象に残っていることは2つあります。

1つ目は青森の総合体育館です。ただの体育館だといつも思っていたけれど、実は災害への備えがとても充実しているところに驚きました。何気なく見ていたマンホールやベンチが、いざというときにトイレやかまどに変わることや、たくさんの備品が備わっている倉庫など、印象に残っている設備がたくさんありました。

2つ目は釜石市で学んだことです。いのちをつなぐ未来館で学んだことが印象に残っています。避難所に逃げても津波の被害にあってしまうことに驚きました。そのため、避難所と避難場所の違いをしっかりと頭に入れておきたいです。釜石市の中学生の話も印象に残っています。中学生が小学生や小さな子どもたち、地域の方の手を引いて、素早く避難を開始し、助かった人が大勢いたという話です。この話を聞いて、日頃の避難訓練の大切さや、さまざまなケースを想定しての避難訓練も大切なのだなと感じました。また、釜石市に行く前に、青森市にも津波警報が出され

た日がありました。そのときにも改めて防災の大切さに気付かされました。防災についても戦争と同じく、学んで経験してきたことをたくさんの人に伝えていきたいです。

今日の造道の発表では3か月間学んだことをしっかり伝えることができました。学んだことを伝えていく活動の第一歩として、いい経験になりました。最初はとても不安な気持ちでいっぱいでした。人見知りだったので「どうしよう」という思いでいっぱいでした。けれど、平和や防災の学習を通して、みんなとたくさんお話することができました。こんなに早く仲良くなったことがなかったので、とても嬉しかったです。終わってみればすごくあっという間でした。この学習に参加して本当によかったと思いました。



○編集後記

本事業の実施に当たり、御多忙の中、生徒たちを温かく御指導いただき、また報告会の運営に至るまで多大なる御尽力を賜りました青森市立造道中学校の齋藤先生をはじめ、派遣生徒の在籍校の先生方並びに青森市内での学習に御協力いただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

また、釜石市の小野市長をはじめ、本市訪問の受入れや交流の機会を設けていただいた釜石市教育委員会の皆様並びに、釜石市での学習に御協力いただいた関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

令和7年は、戦後80年、そして青森空襲から80年という節目の年に当たり、戦争の記憶や、そこから得られる教訓を次の世代へどのように受け継いでいくかが、改めて問われる年でもありました。本事業を通じて、両市の生徒によって育まれた学びと絆が、今後も平和と防災の大切さを次の世代へと受け継いでいく一助となることを願っております。



釜石市の中学生と「青森市総合体育館」にて

令和7年度青森市平和・防災学習事業 報告書

発 行 : 青森市総務部総務課

所 在 地 : 〒030-8555 青森市中央一丁目 22 番 5 号

電話番号 : 017-734-5042

E-mail : somu@city.aomori.aomori.jp